

## Z201a X線分光撮像衛星 XRISM の現状

田代 信, 寺田幸功 (埼玉大, ISAS/JAXA), 渡辺伸, 前島弘則, 戸田謙一, 山口弘悦, 竹井 洋, 冨田 洋, 藤本龍一 (ISAS/JAXA), R. Kelley, L. Reichenthal, L. Hartz, G. Sneiderman, R. Petre, B. Williams, M. Holland, M. Loewenstein (NASA/GSFC), 松下恭子 (東京理科大), M. Guainazzi (ESA), E. Costantini (SRON), 石崎欣尚 (東京都立大), 森 浩二 (宮崎大), 中嶋 大 (関東学院大), E. Miller (MIT), 澤田真理 (立教大) ほか XRISM team

X線分光撮像衛星 XRISM は、高温プラズマの超高分解能分光観測で、重元素生成と循環、および高エネルギー天体から星間空間・銀河間空間にいたるエネルギーの輸送の観測を目的とした、我が国6番目のX線天文台である。XRISM は、2台の高効率X線反射鏡(XMA)と、それぞれの焦点面におかれたX線マイクロカロリメータ(Resolve)とX線CCD(Xtend)を搭載しており、それぞれ超高分解能X線分光と、広視野X線撮像を行う。5年にわたる設計・開発・製造・試験を経て、昨年9月に種子島宇宙センターから打ち上げられ、5ヶ月にわたって、衛星バス機器の立ち上げ、観測装に立ち上げおよび較正、あわせて地上のデータ処理プロセスの調整を行った。これらは概ね順調に進行したが、予定していたResolveのX線入射部の保護窓であるGate Valveの開放が完了できていないため、まだResolveの軟X線帯域の観測に制限がある。しかし、XRISMの特長である1.7 keV以上の帯域での観測をまず進めるため、現状のまま、2月から初期性能確認観測(performance verification observation)、8月からは第一回の公募観測を行うこととした。4月に締め切った観測公募には世界各地から多数の応募があり、現在、選考をすすめているところである。本講演では、これらXRISMの軌道上運用の現状と今後の観測計画について概説する。